



校長会



No.49

三重県小中学校長会 広報 第49号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



職場体験



田植え

読み聞かせボランティア



運動会

私の学校づくり

「チーム千種」で
つながりを大切にした学校づくり

菰野町立千種小学校

校長 小森 正春

「チーム千種」でつながりを大切にした教育

本校は、西に鈴鹿山脈を望み、校区には朝明ヒュッテ、三重県民の森などがある自然豊かな地域にある学校です。

学校教育目標として「ともに学び、関わりを深め、つながり合う子どもの育成」を掲げ、全職員が「チーム千種」をスローガンに様々な活動の中で「チーム」を意識して取り組んでいます。研修テーマ「聴き合い、つながり合おうとする子どもを育てる」を設定し、児童同士が学び合いを通して、つながりを大切にしながら学習を進めています。

地域とともに歩む学校教育

「チーム千種」ということで、本校は、保護者・地域の方々によるボランティア活動により様々な教育活動が支えられています。

主なボランティア組織として「図書ボランティア」「登下校の見守りボランティア」「トイレ掃除ボランティア」等があり、また学習支援として、米作り、大豆づくり、地域学習、職場体験活動等においてもご協力をいただき、地域と一体となった様々な活動を展開しています。

このような本校の特色がある中、校長として率先して地域に出かけ、地域の方々との関わりを大切にしながら学校運営を行っています。また、児童には「地域でも元氣よく挨拶すること」をいろいろな機会を通して話しています。また、職員には、地域教材を取り上げ、特色を生かした学習活動を展開できるように促しています。

これまで本校には、たくさんの方々からの協力を得られ、その輪も広がっています。さらに、昨年度よりコミュニティ・スクールが始まり、従来からの地域との懇談の場「沖見の会」をさらに充実できるよう取組を始めました。

これからもたくさんの方々に見守られ、ご支援を受けながら、保護者・地域・学校がつながり「子どもたちが楽しく学べる学校づくり」を行っていきたいと考えています。

会長挨拶

これまでと新たな十年



三重県小中学校長会

会長 西村 茂

四月二十四日の三重県小中学校長会総会において会長職に就く事を承認いただきました。十二名の役員と三名の事務局で頑張つてまいりますので、よろしくお願いいたします。

本年度の会員は、小学校長及び教育諸学校長が三百五十二名、中学校長が百四十九名の計五百一名で、昨年度と比較すると四名の減となりました。今年も少子化による学校の統廃合が進んだ事になります。

さて、国では、平成二十九年三月に学習指導要領の改訂が告示されました。これからの教育課程の基準を示すもので、この先十年間の新たな教育がスタートすることになります。

では、校長先生方のこれまでの時代はどうだったのでしょうか。みなさんは、昭和五十六年以降の採用と承知しておりますが、

この時代は田中角栄が「人材確保法」を成立させ、五年間をかけて教員の給与を大きく改善させたことで、教職員の採用に明かりをともしました。そして、教職の地位も確立され、教員の採用は順調に推移していったようです。

しかし、一方でこのころに三重県において中学校における教師への暴力事件が大きなニュースになりました。

この頃は、学校での暴力事件が連続して起こり、全国各地で学校が荒れた時代。受験戦争が一層激しくなる中で、「落ちこぼれ」の言葉が生まれ、「荒れる時代」の中で、昼夜、休日を問わず、児童・生徒のために奔走された先生方がたくさんあったのではないのでしょうか。

その後、バブルが崩壊し、公務員への風当たりが強まる中、

暴力に対する指導で悩まされ疲弊していく教師、そこから毅然とした対応を推し進める教師集団。まさに、学校の信頼を勝ち取るための教育活動を先生方は時間をかけて実践されました。

そのような中では、給与返還問題もありました。

やがて、二〇〇〇年代、生きる力を育むために「ゆとりと充実」がうたわれ、無理のない学習環境で子どもたちが自ら学び考える力の育成を目指した教育がスタートしました。

「総合的な学習の時間」が新設され、絶対評価へと移行し、十年をかけて学校週五日制の完全実施も行われました。

いわゆる『ゆとり教育』と呼ばれた時代で、「ゆとり世代」という言葉も生まれました。やがて様々な批判へと拡がっていき、その後、発展的内容を教えてかまわないとする改正や、土曜授業の容認、総合的な学習の時間の見直しが行われ、全国学力・学習状況調査が始まりました。

そして、二〇一〇年代、いわゆる「ゆとり教育」からの脱却を掲げた新たな教育。それに答えるため、教職員は教材研究や教材開発等に一層励み、夜遅くなるのが日常となっていきました。

教師がゆとりを持ってない時代、

校長のリーダーシップと責任が一層増す中、皆さんの前には一人ひとりの子どもたちと、一人ひとりの先生たちがいることで、常に緊張感をもってその職務にあたられました。様々な課題に對して、その度に適切な判断が求められ、気を休める事のできない日々が続いたのではないのでしょうか。

めまぐるしい変化をもたらした数十年が過ぎ、新たな十年がスタートします。

これからの学校教育は、道德の教科化や外国語教育・その時間増、それに加えて「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」など、新たな時代へと進みますが、そこには、学校が益々多忙化する要素が含まれています。

校長としては、指導力の向上と総勤務時間の縮減に向けて更なる舵取りが求められます。教員として、また校長として、激変する時代を駆け抜けた皆さんです。これから先もそれぞれがリーダーシップを発揮いただきたい、真の学力向上と教育環境の充実に邁進されることでしょう。

三重県小中学校長会としても、様々な観点から三重の学校教育を見つめ、改善に取り組んでいきたいと思います。

平成30年度 三重県小中学校長会 役員・監事及び事務局

◇会長（兼小学校部会長）

西村 茂【多気郡・日進小】

◇副会長（兼小学校副部会長）

落合 正史【津市・敬和小】

川岡加寿子【名張市・桔梗が丘南小】

◇幹事（兼小学校幹事）

野々 文彦【員弁郡・笹尾東小】

山本 究【伊勢市・厚生小】

山下 高弘【北牟婁郡・上里小】

◇副会長（兼中学校部会長）

深見 充弘【松阪市・殿町中】

◇副会長（兼中学校副部会長）

森田 定【四日市市・桜中】

松井 幸生【志摩市・東海中】

◇幹事（兼中学校幹事）

山田 洋一【鈴鹿市・鈴峰中】

中川 克巳【津市・東橋内中】

川端 紀生【伊賀市・上野南中】

◇監事

山本 啓子【津市・栗真小】

川村 宏也【熊野市・木本中】

《事務局》

◇局長 大西 学

◇次長 森田 正美

◇局員 宮田 典子

委 員 会 活 動

学校経営委員会

委員長 小宮 敬徳



学校経営委員会では、県内すべての小中学校で、等しく充実した教育活動が展開されるよう、毎年県教育委員会等に対し、「小中学校教育の充実発展に関する施策並びに予算」に関わる要望活動を行っています。本年度も、すでに各校長先生にご意見をいただき、集約作業を進めているところです。昨年度も、この委員会に所属し、県教育委員会との懇談では、県の財政状況を理由に明確な回答は得られなかったものの、少しでも次年度の教育施策や予算に反映されるよう、各校の厳しい現状を伝えさせていただいた記憶があります。

本年度は、委員長という大役をいただき、微力ではありますが、委員会の皆さんと協力し、少しでも、学校経営上の課題解決につながる施策や予算編成がなされるよう取り組んでいきたいと思います。

《本年度の活動方針（概要）》
1 県内全小中学校長から、三重県教

進路指導委員会

委員長 山本 潔



育委員会の施策や予算等に関する意見を集約し、要望の焦点化に努め「重点項目」を設定します。
2 集約した意見を「要望書」、「解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校の充実発展に資するよう要望活動を行います。
3 子ども・保護者・地域・教職員の具体的な事例に基づいて要望活動を行います。
4 要望書の信頼性を高めるように努めます。
こうした活動方針のもと、八月、九月には、県教育委員会事務局各課に対して、要望活動を行います。また、各都市の校長先生による地元選出県議会議員への要望活動も予定していますので、皆様のご協力をお願いします。

現行の県立高等学校入学者選抜制度は既に十二年目となりますが、本年度も、生徒・保護者にとってより満足度の高い制度への改善に向けて

取組を継続していきます。

本年度の活動方針は、児童生徒理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現をめざす進路指導を推進するため、県内各小中学校間の情報交換に努め、入学者選抜制度の見直しと更なる改善、キャリア教育研修の一層の充実を図ることです。

活動内容は、計六回の委員会と、入学者選抜制度検証会への出席、三重県教育委員会への「要望書」の提出（七月）等です。

第一回の委員会（四月）では、昨年度の成果と課題を踏まえ、本年度の活動方針や活動計画について協議しました。第二回（六月）は、各都市の状況を踏まえた要望をとりまとめ、県教委への「要望書」を作成します。第三回（七月下旬）は、要望書に対する「回答」についての協議、第四回（九月）は、三重県私学協会及び私立高等学校・高等専門学校への要望について検討します。第五回（十月）は、「キャリア教育研修会」の開催と、三重県私学協会への要望報告、第六回（十一月）は、私立高等学校並びに高等専門学校への要望報告、年間活動の総括及び総会での報告内容について検討します。

当委員会の活動が、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意思と責任で進路を選択決定するための一助となり、ひいては「信頼される学校づくり」にもつながりますよう、皆様のご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願いします。

当委員会の活動が、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意思と責任で進路を選択決定するための一助となり、ひいては「信頼される学校づくり」にもつながりますよう、皆様のご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願いします。

平成30年度 研究大会

★第53回東海・北陸地区連合小学校長会教育研究三重大会
兼第55回三重県小学校長教育研究大会

- ◇日時 平成30年10月18日(木)・19日(金) 1日目分科会 2日目全体会
◇会場 全体会 三重県総合文化センター 大ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場
三重県総合博物館・アスト津・三重県教育文化会館
- ◇研究主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
一夢の実現に向けて主体的・協働的に学び、共に未来を切り拓こうとする子どもを育む学校経営の推進」
- ◇講演会 講師：よしもとクリエイティブ・エージェンシー
三代目 林家 菊丸
演題：『師弟愛と弟子修業の大切さ』

★第55回三重県中学校長研究大会

- ◇日時 平成30年8月23日(木) 午前：全体会 午後：分科会
◇会場 全体会 三重県男女共同参画センター 多目的ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場
- ◇研究主題 「社会を生き抜く力を身に付け、
未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」
- ◇講演会 講師：三重県総合博物館 館長 大野 照文
演題：『 (未定) 』

平成30年度 三重県小中学校長会・理事一覧

郡市名	小学校理事		中学校理事	
	名前	所属校	名前	所属校
桑名市桑名郡	堀田 直人	長島中部小	野呂 はるみ	光風中
いなべ市員弁郡	太田 博也	丹生川小	小川 専哉	藤原中
四日市市	岡本 雅代	三重北小	田中 繁	楠中
三重郡	伊藤 博之	朝上小	金山 昌宏	川越中
鈴鹿市	篠原 政也	郡山小	宮村 喜代美	白鳥中
亀山市	服部 鋼一	加太小	西 秀人	亀山中
津 市	小宮 敬徳	藤水小	前川 正登	橋北中
松阪市	松田 まゆみ	米ノ庄小	高橋 秀敏	鎌田中
多気郡	栗谷 徹	宮川小	小林 弘明	勢和中
伊勢市	瀬田 純子	早修小	平本 秀次	城田中
度会郡	高林 寿	七保小	東谷 利和	南島中
鳥羽市	濱田 浩	菅島小	濱地 圭司	長岡中
志摩市	岩谷 昌弘	磯部小	厚見 和人	浜島中
伊賀市	辻 喜嗣	壬生野小	宮本 まゆみ	青山中
名張市	稲森 理伸	百合が丘小	森山 哲成	桔梗が丘中
尾鷲市	内山 亮	矢浜小	松島 功城	三船中
北牟婁郡	柳田 誠司	赤羽小		
熊野市	樋口 佳洋	入鹿小	竹原 巧	矢渕中
南牟婁郡	徳田 佳郎	御浜小		

生徒指導委員会

委員長 篠原 政也



悩みあり、実践ありの学び場に

「支援の必要な子への対応、関係機関との連携」これは、昨年度の実践交流会で私が報告した内容のタイトルです。この四月に異動し、児童数は昨年度の約八百人から、その三分の一の学校となりましたが、やはり一つの学校だけで対応するのは限界があると感じます。これを共通課題として、校長会仲間と取組について学び合いたいと思います。

生徒指導委員会の昨年度からの引き継ぎとして、実践交流会では、参加者が主体的に協議し、情報交換できるよう、会の持ち方を工夫することが求められています。そこで、今年度は、スクールソーシャルワーカーの方を講師にお招きし、活動の実践事例等をお話いただきます。その後、小グループに分かれて、講演内容についてふれながら、各校の実践を交流する展開にしたいと考えています。それぞれの地域、学校の特性があっても、目の前の子どもや保護者等と取り組む姿には共通点も多

くあるでしょうし、各校の多様な取組事例から学ぶことで、新しい視点をもてるのではないかと期待しています。

一 活動方針

(1) 生徒指導等の諸課題の解決に向けた取組と支援の在り方を追求します。

(2) 地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安全・安心な学校づくりを努めます。

(3) 県内各小中学校間の情報交換を行い、県校長会及び各市町の校長会にも発信していくような取組を進めます。

二 活動計画

(1) 生徒指導研修会の開催

(2) 各校の実践交流

特別委員会

委員長 金山 昌宏



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を

昨年七月、文部科学省から新学習指導要領の「移行措置」が示され、小学校では二〇二〇年度からの、中学校では二〇二一年度からの新学習指導要領の円滑な実施に

つなげるために、移行措置にどう取り組めばよいか、学校現場に对应が求められているところです。

私たちは、この現況において子どもたちの学力向上のために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業をどう展開すべきか、そして、「働き方改革」を意識した人材育成をいかに進めるべきかを考え、三重県教育委員会と十分議論ができる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を推進できる組織として活動を進めてまいりたいと考えます。

一 活動方針

(1) 子どもたちの学力向上をめざし、三重県教育委員会の取組について学校現場の意見をまとめるとともに、各市町教育委員会や各学校の取組を把握しながら議論を深め、課題を整理し、展望を含めた方向性を提言します。

(2) 教員の授業力向上をめざし、各学校の効果的・効率的な取組を把握しながら議論を深め、「働き方改革」の視点で人材育成のあり方を提言します。

二 活動計画

(1) 子どもと授業を大切にする授業参観シート、「みえスタディ・チェック」、「三重の学」Web3セット・ワークシート」等を活用した学力向上の取組状況について把握し、よりよい活用方法を周知します。

(2) 教員の授業力向上の面において、若手育成を含め、「働き方改革」

を意識した人材育成の好事例などの情報を周知します。

(3) よりよい施策等のあり方については、三重県教育委員会と話し合います。

広報委員会

委員長 柳田 誠司



年度初めの慌ただしさが落ち着いてものの、校長先生におかれましては、新学習指導要領本格実施に向け、移行措置への対応をはじめ、様々な教育課題解決に向けて多忙な日々をお過ごしのことと存じます。

私たち広報委員会は、そのような校長先生方の一助となるような校長先生方への対応や実践、郡市校長会の活動の様子などをお伝えしていきたいと思っています。情報交換・情報収集の場として、また、三重県小中学校長会の会員相互の繋がりを深めていくことに、お役に立てればと考えております。

このような思いをもとに、第一回広報委員会において、本年度の活動方針・活動計画について協議し、以下のように決定しました。

一 活動方針

(1) 広報活動をととして、会員相互の連携意識の更なる向上を図る。

(2) 会員の声を幅広く掲載するとともに、写真を充実させ、親しめる紙面づくりに努める。

(3) 年三回発行し、情報提供に努める。

二 活動計画

(1) 七月、十二月、三月に会報を発行する。

(2) 編集内容は、①「私の学校づくり」②「今日の課題の克服に向けて」③「特別寄稿」④「新任校長の声」⑤「ちよつといい話」⑥「あの時、あの人」⑦「私の薦める一冊」⑧「随想」⑨「研究大会参加報告」⑩「地区校長会だより」⑪「本部役員だより」とする。

(3) 紙面構成は、八面・カラー印刷。

(4) 会員への執筆依頼は、当該地区の理事を通じて行う。

原稿執筆していただきます校長先生をはじめ、皆様のご協力をお願いします

● 原稿募集

会員の皆様の投稿をお待ちしています。なお、内容・字数等につきましては事務局へお問い合わせ下さい。

● 「校長会みえ」について、ご意見・ご要望があればお聞かせ下さい。三重県小中学校長会広報委員会

特別寄稿

コミュニティ・スクールを
とりくみませんか

松阪市立第四小学校学校運営協議会
地域とともにある学校づくりサポーター

理事長 鈴木逸郎

校長会のみなさん、お久しぶりです。私が三教組を退職してから、十七年経ちました。その節は皆さんにご心配・迷惑をおかけしました。今回こうしてお会いできることを嬉しく思っております。

(はじめに)

私がコミュニティ・スクールに関わることになったわけをお話します。

三教組は、一九九七年の大会で「開かれた学校づくり」を決定しました。現在もそうですが、当時も学校には多くの教育課題が山積しており、教職員は大変な仕事に追われていました。このような学校を何とかしなくてはならないと、地域・家庭・学校が一体となって課題に取り組もうというものでした。

二〇一一年度が始まって間もな

づくり協議会」を設置することになりました。第四地区住民協議会発足と同時に活動部会として「教育部会」を設けることができ、地域と学校・子どもの距離が随分近くなりました。そしていま「地域の子は地域で育てよう」と呼びかけ、地域住民と子どもが交流する場をつくるなどの活動をすすめています。

第四小学校学校運営協議会理事は校長とCS担当教諭、PTA役員、自治会長会・民生委員の会・ボランティアの会等の代表、企業の人、社会福祉協議会の地区担当、元校長など地域の様々な分野の人にお願ひしています。

中学校区三校で「鎌田中学校区CS連携協議会」を設けて連携を図っているのも私たちのCSの特色です。連携の取組はまだ道半ばですが、小中学校の子どもたちが明るくてたいへん落ちついてきたこと、地域の人に挨拶をする子どもが増えてきたことなどの成果が出ています。

終わりにひと言。これからの社会は更に激変するでしょう。学校も地域も大変な時代を迎えます。子どもたちのために、ぜひCSを導入し、学校と地域が協働して活動されることを祈念いたします。

(CSの取組)

CSを始めるにあたり、地域と学校をどう結ぶかと悩みました。そんな時(二〇一一年度)松阪市では全地域に「住民協議会」まち

平成29年度末
退職校長感謝の集い

平成30年4月7日(土) プラザ洞津



来賓挨拶



実行委員会代表挨拶



退職校長代表挨拶



感謝状贈呈

新任校長の声

大切にしていきたいこと

明和町立修正小学校
校長 竹本 昌弘



リーダーシップを発揮すべき校長には、マネジメント力や危機管理能力などの資質・能力が求められます。どれも学校経営を具現化するために欠くことのできないものです。

そこで、私が大切にしていきたいと考えているのは、次の三点です。

一つ目は、「凡事徹底」です。

平凡だが、大事なことを日常生活の中で徹底していくことが、大きな力を蓄えられることにつながります。子どもたちの日常生活を見直し、基本を徹底し、「当たり

前のことが当たり前前にできる」力を学校・家庭・地域で協力して育てていく必要があると考えています。

二つ目は、「人とつながっていく力」です。

子どもや職員、そして、保護者や地域の皆さんとつながってこそ、めざす学校経営が実現に向かいます。熱意をもって誠実に人と向き合い、日々の取組の積み重ねによって信頼を得ていく。これらの集積が人とのつながりを紡ぎ、地域に開かれ、ともにあり、信頼される学校づくりにつながっていくと考えています。

三つ目は、「職員が安心して子どもと向き合えることを大切にする姿勢」です。

小学校においては、子どもと担任との信頼関係が、学級づくりの基盤となり、わかる授業や確かな学力、さらには、豊かな心を育むことにつながっていきます。そして、学校づくりの基盤となります。そのため、職員が安心して子どもと

職員、保護者、地域の方々とともに

名張市立蔵持小学校
校長 若山 博史



「おはようございます」

四月から毎朝、学校の近くの三つの交差点に交互に立って交通指導をしながら子どもたちと挨拶を交わすのが日課になっています。

蔵持小学校は創立百四十三年を迎えた歴史ある学校で、旧校舎の一部は犬山市の明治村に移転・保存されています。七年前からユネスコスクールの認定を受け、子どもたちが持続可能で希望ある未来社会の担い手となるよう、「持続可能な社会のための教育(ESD)」の研究・実践を進めています。また、ここ数年、オース

向き合える環境を整え、向き合える時間を保障していくことに力を注ぐことが大切だと考えています。これらのことを少しでも具現化できるように、日々、努めていきたいと思っています。

トラリアの小学校との交流を行っており、二年に一度、オーストラリアから本校に先生と子どもが来ています。

四月当初、校長として赴任し、初めての職員会議、初めての始業式・入学式など、緊張の連続でした。しかし、職員や子どもたちの明るい声に励まされ、少しずつ落ち着いてきました。また、月一回の地域まちづくり委員会の会議にも参加させていただき、役員の方々の学校に対する思いも感じることができました。

五月十九日。運動会まであと一週間に迫った土曜授業の三限目に、子どもたち・保護者・地域のボランティアによる「クリーン作戦」を開催しました。地域のボランティアの方々が開始二時間前から作業を始めてくださったこともあり、約四十分という短い時間でしたが、見違えるような環境になりました。そして迎えた二十六日の運動会。多くの方がご覧いただく中、子どもたちは全力で競技・演技に取り組み、心に残る一日になりました。

校長の大きな仕事は、学校教育目標実現のために、どうするかを考え、道を示して進めていくことです。まだ歩み出したばかりですが、職員、保護者、地域の方々

来年の桜に

伊勢市立港中学校
校長 金森 晃生



校長室は二階の端にあり、さらに張り出したバルコニーの横には大きな桜の木があります。赴任当初、桜は満開で窓を額縁にして、それはそれは見事でした。

私はバルコニーに出て、その桜に聞いてもらうように、始業式や入学式の挨拶を声に出して練習しました。新任校長としての緊張や不安や気負い、これから始まる高揚感など、言葉では表せない感覚がありました。今思うと「校長としての思いを生徒や職員、保護者・地域の人々に伝えたい」というより「とにかく、この連続する挨拶を乗り切りたい」という思いが強かったのかもしれない。

二ヶ月が経ちました。不慣れな

とともに、どの子も「今日も学校に来てよかった」と思う学校にしようと思いを新たにしました。

挨拶は、まだまだ初心者マーク。ただ、私は赴任当初から「思いやりの心」という言葉を何度も使いました。始業式、入学式の挨拶然り。学校の経営方針にも入れました。これからの時代を生きていく子どもたちには、自分自身と自分の周りにいる人を大切に思う心を持つて欲しい、そのために、大人も意識して子どもたちに接してほしいと思うのです。赴任前、これもあれもやりたいと思っていましたが、まだ何も手を付けていません。ただ「思いやりの心」は、校長としての私の思いを伝えるキーワードとしていつも使っています。今、子どもたちは落ち着いて学校生活を送り、職員もみな元気に勤務しています。このような日常に感謝しながら、これからも港中学校を「思いやりの心」が育つ場にしていこうと思います。

年度初めに私の言葉を静かに受け止めてくれた桜は、今豊かな新緑となり、校長室に初夏の佇まいを見せてくれています。この葉は色づき、落ち、そして来春、また満開の花を見せてくれるでしょう。その時私はどんな挨拶を考えているでしょうか。その日まで、日々の営みを大切にしていきたいと思っています。



鍛えていただいた 優しい先輩

松阪市立小野江小学校
校長 岡田 良和



校長になり五年目となります。

校長は、学校に一人で、最終判断や相談事など、自分の力量では対応できない場面が多々あります。他校の校長先生に相談にのっていただいたり、アドバイスをいただいたりして、今まで何とか続けられているのが現状です。

先日、本校研修会の講師依頼にある先輩を訪ねました。その先輩の先生は、三十八歳頃、二年間みっちり「授業とは」「算数とは」について教えていただいた方です。

その当時は、本当にきつかったです。「ここをこうすれば良い」という事を一切教えていただけませんでした。指導案を見ていただくと、「ここで、なんて聞くの」、「こ

の考えが出なかったらどうするの」など、問題点を指摘していただくのみでした。指導案検討が終わる、自分の指導案をもう一度見ると、「この授業はできやんな。また、振り出しやな」とゼロスタート。一から考え直し。目一杯考えたものがゼロスタートというのは、気分はマイナス百です。何とか違う課題を考え、授業の形に作り上げ、指導案に見ていただくと、その授業も課題点が多くなるとゼロの振り出しへ。この繰り返しでした。

とことん追い込まれていく感じで、苦しくて苦しくてしかたがなかったです。三年後、授業を見ていただいた時も、「岡田さん、まだまだやのう。次を期待しているで」と言われ、「次こそは」と思う気持ちがいってきいたものです。

「子どもたちに考えさせる授業を」と言われますが、まさに私自身がそれを受けていたのです。今の自分があるのもこのように追い込んで絶えず考える機会を与えていただいた先生のおかげです。

自分には、心を鬼にして人を鍛え成長させていくことは、なかなか出来ません。厳しく指導していただけたということは、実は優しいさであつたと思います。

今は、遠慮なく何でも聞いたり頼んだりしています。いつも「え

えよ」と言っていたいています。感謝の一言につきます。

素敵な子どもたち

南勢町立南勢中学校
校長 後藤 武彦



先日、校内研修会で外部講師の方を招聘しました。その方は「子どもたちの様子を少しでも多く見たい」と朝早くから学校に来て下さいました。そして、開口一番「校長先生、この学校の子どもたちとても素敵ですね」と言っていたきました。理由をお尋ねすると、「まず、車を降りて歩いてみると、登校してきた生徒さんが、自分から『おはようございます』としっかりとあいさつをしてくれました。そして、ちよと試す気持ちもあつて、『この校長先生のお名前はわかりますか』と聞くと、『はい、後藤校長先生です』ときちんと答えました。担任の名前しか分からない子どもさんも多くいますが、管理職の方の名前まで分かるということは、学校全体で子どもの指導に当たっていることだと思っています。素敵なこ

とだと感じました。その上わざわざ遠回りして、入口まで案内までしてくれました」とのことでした。もちろん、社交辞令もあるかと思いますが、校長として、子どもを褒めていただくのは、何よりうれしいことです。

私は、今年度本校に赴任しましたが、職員の方はいさつの指導をととても熱心してくれています。というより、自然に自分たちから率先してあいさつをして、それを生徒が見習っていると感じます。生徒会や委員会を活用しての「あいさつ運動」は、多くの学校で実践していると思います。本校ではそれに加え、以前から、朝、登校してくる子ども達に職員全員が昇降口の前で、「おはよう」と声をかけることを毎日年間を通じて行っています。このような職員自らが自然な感じで率先実行する取り組みがあればこそ、先ほどの子どもの行動があると思います。「素敵な子どもたちですね」そんな言葉をいただき、その言葉をかみしめることで、子どもたちや職員に感謝の気持ちを持つことができ、とても素敵な一日となりました。

【追伸】教育実習生が本校に来て、「僕たちの時も先生方は『おはよう』と毎日見守ってくれていました」と語っていました。

地区校長会だより

熊野市小学校長会

「チーム熊野」として

熊野市は世界遺産に登録されている熊野古道や七里御浜、鬼ヶ城など、海あり山ありの豊かな自然に恵まれており、温暖な気候のおかげで大変過ごしやすい地域です。

熊野市小学校長会は市内九小学校（新鹿、木本、井戸、有馬、金山、神上、五郷、飛鳥、入鹿）からなる組織です。平成十七年十一月の「平成の大合併」で南牟婁郡紀和町（入鹿小）が熊野市に仲間入りしました。一方、児童数の減少によりかつては分校も含めて十九校あったものが、統廃合があったり、現在休校中の小学校や分校があったりで、現在に至っています。尚、新鹿、神上は小中併設校で、校長は中学校長としての業務もこなしています。

市街地にある四校を除いては少子高齢化が進む地域にあり、複式学級による授業を行っています。学校規模や抱える課題はそれぞれちがうものの、情報共有や協力体制を密にすることで、熊野市の教



育を作る体制を強化しています。月一回行われる熊野市小中校長会の後、小学校校長会を行い、大事な情報共有の場となっています。また、各校長は市内及び御浜町、紀宝町を含む紀南地区の教育関係組織にも分担して所属しており、各組織内の活動を支えながら、各組織と校長会とをつなぐ役割も担っています。

熊野市では再来年度、市内全校

で学校運営協議会を設置することになっています。それに先駆け数校で先行実施しています。地域と一体となって学校を運営していくことは今後の重要な課題の一つとなりますが、スムーズな本格実施に向け、先行実施の学校からの情報を共有でき、「チーム熊野」の重要性を感じています。

桑名郡市中学校長会

「Team KUWANA」

古くから東海道五十三次の宿場町として栄え、「七里の渡し」で有名な東海道唯一の海路であった桑名は、揖斐・長良・木曾の三川を有し、北は多度山、南は伊勢湾を臨む地域で、三重県の北の端、愛知県や岐阜県との県境に位置する人口約十五万人の地域です。

桑名郡・市には十校の公立中学校と一校の私立中学校があり、私たち桑名郡市中学校長会は十校の公立中学校の校長十名で構成されています。

実は、桑名郡・市の中学校教員の構成は二十〜三十歳代の教員が六十パーセントを超えています。つまり、中堅からベテランの教員が、他の地域と比較して極端に少ないという状況です。ベテラン教員が少ないが故に、毎年学年配当

を決める時点で学年主任をはじめとする主任クラスを決定すること、に苦慮しています。その為、経験豊富な教員は赴任一年目で、主任クラスの分掌を担当することも稀ではありません。校長としては、教頭と協力しながら、いかにミドルリーダーを育てていくかが、ここからの課題であると考えます。

皆さんもご存じのように、校長という職は大変孤独です。校内外には様々な課題が山積しています。が、桑名郡市中学校長会のメンバーは、十人で横の連携や情報交流を深めながら、日々頑張っています。



桑名の「く」…苦しくても
桑名の「わ」…わかり合える
桑名の「な」…仲間がいる

小学校の校長と併せた桑名郡市小中校長会も含めて、右記の合い言葉のもと、これからも桑名郡・市の教育の充実と発展に取り組んでいきます。

編集後記

新年度の慌たしから解放されるまもなく、一学期も大詰めを迎えようとしております。

各校長先生方におかれましては、学校運営とともにさまざまな教育課題への対応等お忙しい日々をお過ごしのこととお察しいたします。

今、学校現場では、新学習指導要領の全面実施に向けた取組や総務時間削減・学力向上の取組、中学校では、保護者・地域の方の理解を得ながら進めなければいけない学校部活動運営方針の策定・運用等々、喫緊の課題が山積しております。また、この数年で退職される校長先生方も多く、今までの取組をいかに次世代に繋げていくかという課題もあります。今までの以上に、三重県小中校長会として市町の枠を越えた「つながり」を大切にして、日々の教育活動を進めていくことが重要であると考えております。

三重県小中学校長会広報「みえ第四十九号」の発行に当たり、原稿の執筆依頼を快くお引き受けいただきました皆様に、深く感謝申し上げます。

広報委員会では今年度も年三回の広報「みえ」を発行させていただきます。よりよい情報提供に努めるとともに、会員相互の情報交換や校長会組織の充実に役立つ紙面づくりを目指すことで、連携意識をさらに高めていきたいと考えておりますので、ご支援ご協力の程よろしく願っています。